

「第7回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」

会 議 録

日時：平成20年2月15日（金）

9：30～10：15

場所：市役所 3階 合同委員会室

次 第

【司会：水井企画部長】

1. 開会
2. 「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（研究会案）に関する提言」の提出
・提出：鈴木座長
3. 懇談
4. 閉会

配布資料

○次第

○大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）に関する提言

○大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）

○大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）概要版

出 席 者

- | | | |
|-------|-------|------------------------------|
| ○座 長： | 鈴木 誠 | 岐阜経済大学経済学部教授・地域連携推進センター長 |
| ○委 員： | 小林 修 | 大垣市青年のつどい協議会会長 |
| | 坂 忠男 | 特定非営利活動法人大垣まちづくり市民活動支援会議副理事長 |
| | 辻本 周作 | 終の住まい研究会プラチナプラザ代表 |
| | 早崎 正人 | 大垣市社会福祉協議会事務局長 |
| | 日比野良己 | 大垣市障害者団体連絡協議会理事 |
| | 吉田みはる | 大垣点訳グループ愛盲会副会長 |
| | 成瀬 重雄 | 大垣商工会議所事務局長 |
| | 箕浦 之治 | 大垣市観光協会副会長 |
| | 大橋 宏之 | 大垣市立小中学校長会（大垣市立時小学校長） |
| | 一柳 善郎 | 公募による市民 |
| | 山崎 幸輝 | 公募による市民 |

○事務局：水井 静雄 大垣市企画部長
広瀬 幹雄 // 企画部政策調整課長
寺嶋 太志 // 企画部政策調整課政策調整係長兼広域政策係長
長澤 由起 // 企画部政策調整課主事
宮川 祐志 岐阜経済大学研究支援課長
菊本 舞 // 地域連携推進センター・チーフコーディネーター

発 言 録

1. 開会

【水井企画部長】

本日は、お寒い中、また、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、企画部長の水井でございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは、只今から、「第7回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」を始めさせていただきます。

本日の研究会では、これまでの意見交換を踏まえて取りまとめをいただきました「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）」を市長へご提出いただきたいと存じます。

それでは、鈴木座長様、よろしくお願い申し上げます。

2. 「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（研究会案）に関する提言」の提出

【鈴木座長】

みなさん、おはようございます。いよいよ今日が市長への提言の提出日となりましたので、よろしくお願いします。

最初に事務的な話ですが、本日の研究会につきましても、個人情報など非公開とする事案がないことから、大垣市情報公開条例の規定に基づきまして、公開といたします。また、この研究会の会議録も、これまでと同様に、市のホームページと市役所1階の市政情報コーナーにおいて公表されることになりますので、ご理解をよろしくお願い申し上げます。

それではここで、本日の研究会の傍聴を希望しておられる方がいらっしゃいますので、お入りいただきます。

《傍聴希望者が入場》

【鈴木座長】

それでは、続けさせていただきます。

委員の皆様には、これまで6回の研究会で、大垣市にふさわしいユニバーサルデザインのまちづくりに向けた推進指針（研究会案）につきまして、活発にご議論いただきました。また、前回の第6回研究会以降にも、多くの追加意見をいただいております。それらの意見を踏まえまして、私と事務局で、指針（案）を修正させていただき、委員の皆様には事前に送付させていただいております。

本日、この研究会からの提言として、市長へ提出したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

【水井企画部長】

ありがとうございました。それでは、鈴木座長様、小川市長、中央へお進みください。

《鈴木座長、小川市長中央へ移動》

【鈴木座長】

近年、大垣市では、高齢化の進行、国際化の進展、市民生活圏の広域化、市民の価値観の多様化などが急速に進んでいる中、これからのまちづくりに向けては、「誰もが暮らしやすい社会づくり」が求められています。

当研究会では、こうした社会づくりに向けて、平成19年9月20日から、大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくりについて、全国の先進事例を研究しながら、議論を重ねてまいりました。

「誰もが暮らしやすい社会づくり」に当たっては、これまで取り組んできたバリアフリーを一層推進しながらも、その上で、ある特定の人のためではなく、性別・年齢・身体的特性・国籍などの違いを越えて、はじめからすべての市民の多様なニーズを考慮するユニバーサルデザインのまちづくりを進めることが必要であると考えます。

このため、本日、「住んでよし、訪ねてよし、すべての人に優しい、思いやりいっぱいのもち・大垣づくり」を理念とし、大垣市内に住むすべての人々が安全で安心して暮らし続けられるとともに、大垣市を訪ねる人々が感動し楽しんでいただけるよう、思いやりいっぱいのもちづくりを進めるため、「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針(案)」を提言します。

そして、今後、この指針（案）に基づく市民・事業者・行政の協働による取り組みが、市民一人ひとりがいつまでもかがやき続け、市民の魅力で活力あふれるまちである「かがやきライフタウン・大垣」づくりと一体的に進めることにより、「飛躍」、「輝き」、「安心」を3つの柱とする「ダイナミックシティ大垣」のさらなる発展につながることを祈念いたします。

《鈴木座長、小川市長へ提言を提出》

【水井企画部長】

ありがとうございました。お席の方へお戻りください。

《鈴木座長、小川市長自席へ着席》

【水井企画部長】

それでは、ここで、小川市長から、ごあいさつを申し上げます。

【小川市長】

只今、鈴木座長様から、「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）に関する提言」を頂戴いたしました。

これまで、研究会の皆様には、全国の先進事例を研究しながら、大垣市にふさわしいユニバーサルデザインを生かしたまちづくりについて、活発にご議論をいただき、このように取りまとめていただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

さて、「ユニバーサルデザインのまちづくり」につきましては、公約として掲げさせていただいております、「飛躍」、「輝き」、「安心」の3つを柱とする「ダイナミックシティ大垣の創造」に向け、「安全・安心の都市づくり」に向けた施策の一つに位置づけております。

本日、研究会の皆様から、「住んでよし、訪ねてよし、すべての人に優しい、思いやりいっぱいのもち・大垣づくり」を基本理念とし、性別・年齢・身体的特性・国籍などの違いを越え、大垣市に住むすべての人々が安全で安心して暮らしつづけられるとともに、大垣市を訪ねる人々が感動して楽しんでいただけるまちづくりについて、ご提言をいただきました。

今後、ご提言いただきました内容を基に、これまで取り組んできたバリアフリーを一層推進しながらも、その上で、最初からできる限り多くの市民の皆様のニーズを考慮するユニバーサルデザインのまちづくり取り組み、誰もが暮らしやすい都市を目指してまいりたいと思います。

最後に、鈴木座長様をはじめ、委員の皆様には、今後とも、ユニバーサルデザインのまちづくりに向けまして、ご支援・ご協力賜りますことをお願いして、お礼のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

3. 懇談

【水井企画部長】

研究会の皆様には、これまで、大垣市におけるユニバーサルデザインのまちづくりに向けて、貴重なご意見をいただきました。誠にありがとうございました。

少し時間がございますので、委員の皆様お一人ずつお言葉を頂戴いただければと存

じます。大変申し訳ございませんが、お時間の関係もございますので、お一人2分程度でお願い申し上げます。

それでは、大垣市青年のつどい協議会会長の小林様から順にお願いします。

【小林委員】

大垣市青年のつどい協議会の小林でございます。まずもって、9月から本日まで「ユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」に参加させていただいたことに、お礼申し上げます。

当協議会は、性別や年齢、また身体的特性の異なる様々なメンバーの方が一堂に会しまして、様々な事業を行っています。ですから、内容について非常に自分の為になったと同時に、これは必ず協議会の為にフィードバックしていく必要があると思っています。せっかく私が研究会に参加させていただいたので、そのことを後に残していく使命を私が負っていると感じています。

なかなか意見を申し上げることができず研究会に貢献できたかどうか分かりませんが、学び得たことを今後の活動に生かして、これからも邁進してまいります。ありがとうございました。

【坂委員】

大垣まちづくり市民活動支援会議の坂でございます。この研究会に参加させていただきまして、これまでいろいろ申し上げさせていただきました。努力不足ではありましたが、このようにまとまったことを嬉しく思います。

支援会議といたしましては、指針（案）の（案）がとれて、早く指針となることを臨んでいます。特に、5章のところが、来年度に新たな事業として展開できるのではないかと希望を持っています。普及啓発活動についても、支援会議としてできることから進めていきたいと思っています。

個人的な意見としては、情報・サインの関係で提案させていただけたことは、嬉しく思っております。研究会の中でもお話をさせていただいたが、ヨーロッパまでとは言いませんが、綺麗なまちだけれども、どうも大垣を見るとイマイチなので、景観を考えてサインなんかも進めていけたらという点で一翼を担えたらと思っています。簡単でございますが、以上とさせていただきます。

【堀委員】

岐阜経済大学マイスター倶楽部で活動をしております3年の堀あゆ美です。今回、「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）」を提出できたことは、私個人としても大変嬉しいです。私自身が大学で社会福祉を専攻していることもあり、最初の頃は福祉に偏った意見しか述べるができなかったですが、みなさんのご意見も伺いながら、とても視野を広くしながらユニバーサルデザインについて考えることができたことが一番良かったことだと思っています。

今回できた指針（案）が、少しずつでも、一つずつでもいいから、大垣に関わる皆

さんの日常生活に浸透していってもらえると嬉しいと思っています。私自身の今後の経験に、今回のことを生かしていけたらいいと思います。ありがとうございました。

【辻本委員】

プラチナプラザの役員でございます辻本と申します。今回のユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会にでは、今後の方針について、皆様方の積極的なご意見を賜りまして、私自身も非常に大変勉強になりましたし、今後、個々に積極的に生かして、少しでも行動の一端を担えればなと思っています。

今後とも皆様方のご指導を願いながら、より一層自分達の中で、実施の方向で動いていきたいと思っています。ありがとうございました。

【早崎委員】

大垣市社会福祉協議会の早崎と申します。今回の「大垣市ユニバーサルデザインの推進指針（案）」の提言に携わらせていただき、私自身、「ユニバーサルデザイン」という言葉そのものがまだ一般化していないことを実感しましたし、少し心配もしております。

研究会では、大垣市長が中心に掲げております「かがやきライフタウン構想」が、このユニバーサルデザインとどう結びつくのかということをし提言させていただいた記憶があります。指針（案）の中に、ユニバーサルデザインと大垣市の市民活動、行政支援が全て盛り込まれていると思います。人づくり、地域づくり、物・環境づくりというのは何かの理念がないと、その方向に進んでいけないので、ユニバーサルデザイン推進指針がその中心を担ってくれるといいなと思います。今後、ユニバーサルデザインの理念が市民に浸透していくことを期待したいです。

【日比野委員】

障がい者を代表して出させていただきました。私はあまりこのような会に出たことがなかったので、うまく話せないですが、この研究会で体験をちょっとしてもらったことがあります。それは、駅やまちなかを歩いて、そこがどんな状態になっているかを皆さんに一度見ていただくことと、ユニバーサルデザインがもっと伸びていくと思っています。これからも体験と取り入れていただくと、もっとこのまちが良くなると思いますのでよろしくお願い致します。

【吉田委員】

私はこの会に参加させていただきまして、とても自分自身が勉強になりましたと同時に、これからも一市民としてまちづくりの活動に参加させていただきたいと感じました。

日ごろ、私は、ボランティア活動を通して、視覚障がい者の方と接していますが、視覚障がい者、聴覚障がい者と一言でいっても、本当に障がいは個人によってすごく差があります。障害者手帳を持っていて点字が読める方や手話ができる方は本当にわ

ずかで、障がい者と名前はつかなくても視覚がちょっと不自由だったり、聴覚が不自由だったりする方がとてもたくさんいると思います。そういう方達にとって、何が一番不便かという、視覚障がい者では二大不自由と言いまして、移動と情報収集が困難であるということです。例えば、情報収集では、視覚障がい者は拡大文字であったり、聴覚障がい者は要約筆記やＯＨＰを使って必要な情報を入手しています。ですから、今後も、障がい者の置かれた状況と配慮を忘れることなく、そうした方法もユニバーサルデザインの一つとしてどんどん利用していただき、教育や行政の場においてすべての市民に情報の不公平がないようなご配慮いただけることを強く望みます。

【成瀬委員】

大垣商工会議所の成瀬です。この「大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」に参加しまして、私自身が勉強になりました。

従来、バリアフリーという言葉が耳なれた言葉であって理解もできていたが、ユニバーサルデザインとなるとまだ耳慣れていない言葉でありました。しかし、皆さんからの意見を聞いていくうちに、私なりに勉強ができたので感謝しています。

指針（案）としてまとめられた中には、市内の事業者の役割が各所に設けられているので、これから商工会議所の中で広報などをするとときに、少しでも会員のみなさんにご理解いただけて、また、ユニバーサルデザインを念頭におきながら製品開発などのいろいろな事業に取り組んでいただけるような情報提供を私達でやっていきたいと今回改めて思いました。

これからも、こういったことでユニバーサルデザインを生かしたまちづくりができれば、大垣市に住んでみえる方も、また、来訪される方も非常にやさしいまちということで、多くの方が集まり集う場所になるよう期待しています。また、皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

【箕浦委員】

大垣市観光協会の箕浦です。私は、ユニバーサルデザインという言葉しか知りませんでした。中身を全く知らなかったけれど、研究会の中で勉強させていただいたので、感謝したいと思います。

その勉強の中で、「かたち」を中心に考えているまちが多いと感じたが、今回の推進指針（案）は、人のところや人の関わりといった交流が前面に出てきたので、非常に大垣らしくなったなという感じを受けています。良いものができたなという感じで読みました。

理念のところに書いてある「住んでよし、訪ねてよし、すべての人に優しい、思いやりいっぱいのもち・大垣」というように、大垣らしさが前面に出てきたことがすばらしいと思います。そのあとに１，２，３と書いてあるその通りのまちに大垣になると、人と人との関わりの深い、歴史文化や水と緑を大切にしたまちで住んでる人も訪ねてくる人も満足できるまちになると思います。私個人としての力は小さいですが、このような方向で努力していけたらと思います。

【大橋委員】

市の小中学校校長会を代表してこの会に参加させていただいております。教育に携わるものとして、一言、期待を込めて意見を言いたいと思います。

今、学校では様々な問題があります。学力問題、いじめ、不登校などです。また、最近ではモンスターペアレントというものも問題になってきております。しかし、こういったことは、学校に限ったことではないと考えます。例えば、職場内で、心無い言葉によって中傷されている人もいるのではないかと思います。

よく言われるのは、「学校は社会の縮図」や「学校は社会を映し出す鏡」です。今、ユニバーサルデザイン推進指針（案）が手渡りましたが、このユニバーサルデザインの理念にあります「すべての人に優しい、思いやりいっぱいのまち」のような環境は、住んでいる人の意識を変えていくと思います。さらに、もしこれが実現されれば、本当に住みやすい大垣のまちになっていくと思います。学校でも、もちろんユニバーサルデザインの考え方を入れています。先程も申しましたように、「学校は社会を映し出す鏡」ということからすると、今、子ども達が住んでいる環境がより良い方向に進んでいくことで、子ども達がより良い方向に育っていくのではないかと思います。

大垣市の将来を担う子ども達のためにも、市民・行政・企業が一体となってユニバーサルデザインのまちづくりを進めていけたらと考えています。

【一柳委員】

公募によって参加させていただきました一柳と申します。まず、参加させていただいたことをありがたいと思っています。

私もこれまで、この会でいろいろ申してきましたが、大学卒業して四十数年間、大垣市は、私にとって寝に帰るまちでした。しかし、ここ数年、ようやく多少、時間の余裕が出てきました。私は、以前、行政に携わっていたこともあり、住民に対していろいろお願いしていました。ボランティアの重要性についてもお願いしていましたが、さて、自分に余裕ができたから何ができるのかといった時に、非常に愕然としました。なぜなら、地元であれば本来お互いよく知っているはずなのに、私より妻のほうがはるかに地元で顔が知られていました。あの人は誰かと言われたこともありました。そういう中で、本当にボランティアとして、私には何ができるだろうかと考えたところ、多少自分が携わった経験をこのまちの中に生かせるのではないだろうかと、応募しました。

指針ができて、これはスタート、つまり土俵ができただけだと思います。今後、行政の皆さんも大変だと思いますが、一步一步と地道に生かしていったらいいと思います。

【山崎委員】

同じく公募で参加させていただきました山崎です。参加させていただいて、ユニバーサルデザインの再認識というか、必要性を教えてくださいました。

私自身も一時期離れていましたが、生まれてから大垣におります。帰ってくると、やはりこのまちは良いまちだと思います。それと同時に、もっとよくしたいという気持ちがあります。最終的にはこのまちに住んでよかったなという思いになりたいと考えています。当然、自分自身も今後年老いていく訳ですし、身体に障がいを負うことになるかもしれません。そんな中で思いやりの心を持って支えあうことができるまちは理想ではないかと思います。

今後も、自分も努力していきながら次の世代の子ども達に引き継いでいけるような指針にして関わっていただけたらいいなと思いますので、よろしくお願いします。

【鈴木座長】

ありがとうございました。大垣市はこれから長期的にみていくと人口減少社会を迎えます。岐阜県も既に2005年に人口減少に入りました。しかし、世界的には人口爆発が起こっており、資源や環境の問題が発生しています。これからの大垣市が持続可能なまちとして発展していく上で、今、我々が考えなければならないことは、世代間の人口バランスが悪化しているということです。大垣市では今、人口が少ないながらも、若い人が安心して大垣に暮らし、結婚して子どもを産み育てることができるまちが実現されつつあります。そういった環境づくりをこれからも続けていき、世代間のバランスが回復できるようにしていかなければなりません。我々市民もどういうまちを目指すのか市民に直接伝える努力をしなければならないのです。さらに、近年、大垣では大変多くの観光客やビジネスマンがお見えになります。こういう方たちに対しても気配りができるように、市民としてまちづくりを進めていかなければなりません。外国人市民も多くなっていますので、一市民としての自覚を持って、協力していく必要があると思います。すべてにおいてユニバーサルデザインの指針が役立っていくと思います。私たちもできることを懸命に行っていくことが大切です。これで終わりではなく、これを機会に市民と市民、市民と企業、市民と行政が連携を密にして取り組んでいき、輪を広げる努力をしたいと思います。

市長におかれましても、この案をぜひ指針としてダイナミックシティ大垣の実現に向けて邁進されますようお願いします。

3. 閉会

【水井企画部長】

本日は貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。行政といたしましても、この提言の中身を一步でも進めることができるよう努力していきたいと思います。委員の皆様には、今後も、大垣市の魅力あるまちづくりに向けて、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。第7回にわたりました研究会を終わりたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。

——了——